

してほしくない」—に対する2グループの共感度の平均値を比較した(最低値0, 最高値2)。非当事者の共感度の平均値は1.50と、当事者の平均値0.73にはかなりの差があり、この両グループ間の差は、 $\alpha=5\%$ でt検定(両側検定)した結果、 $t=10.03$ ,  $df=412$  (equal),  $p=.000 (<\alpha)$  で、統計的に有意であった。これらのことから、非当事者の方がクローズドアダプションを好む傾向があると言えるであろう。

**B. セミオープンアダプション：**

セミオープンアダプションの共感度に関する2項目はⅡ.3「育ての親を選択する時に、産みの親が意見を述べる機会を作る」とⅡ.5「養子縁組成立後、育ての親が福祉機関を通して子どもの写真を産みの親に送る」であり、それぞれのグループの平均値と、 $\alpha=5\%$ で行なったt検定(両側検定)の結果は【表6】の通りであり、両グループ間に差があるという仮説が支持された。したがって、やはり、セミオープンアダプションを実際に行なっている当事者と比べると、非当事者はセミオープンアダプションに共感しないといえる。

**C. オープンアダプション**

a) オープンアダプション全般

非当事者と当事者の両グループの、低度から高度のレベルまで含めたオープン度に対する共感度の9項目(Ⅲ.1.3、Ⅲ.1.9、Ⅲ.1.10、Ⅲ.2.4、Ⅲ.2.9、Ⅲ.2.10、Ⅲ.3.1、Ⅲ.3.11、Ⅳ.5)の和の平均値を比較した(最低値1, 最高値10)。当事者の平均値は6.10で、非当事者の平均値の5.01と比べて高かった。 $\alpha=5\%$ でt検定(両側検定)をした

結果、 $t=-4.88$ ,  $df=214.62$  (unequal),  $p=.000 (<\alpha)$  であり、この差は、統計的に有意であった

b) 養子縁組成立前のオープン度

質問項目Ⅱ.4「産みの親が養子縁組成立前に育ての親に会う」に対しての好感度の平均値を、非当事者と当事者のグループ間で比較した(【表7】参照)結果、当事者グループの方(4.13)が非当事者グループ(2.98)よりかなり高く、両グループの平均値の差は統計的に有意であった。

また、養子縁組成立前に、産みの親と養親が会うことへの共感度をみる2つの質問項目(Ⅲ.1.3, Ⅲ.3.1)の和の平均値を比較した(最低値1, 最高値3)。非当事者の平均値が2.54、当事者の平均値が2.87で、両グループともかなり高いが、当事者の平均値の方が少し高かった。また、 $\alpha=5\%$ での両側検定の結果、 $t=-6.82$ ,  $df=321.78$  : unequal,  $p=.000 (<\alpha)$  で、この差は、統計的に有意であった。

c) 養子縁組成立後の高レベルのオープン度

養子縁組成立後の高レベルのコミュニケーション・オープン度を表す項目Ⅱ.6「養子縁組成立後、福祉機関の仲介なく、育ての親と産みの親が連絡を取り合う」での、2グループの平均値と $\alpha=5\%$ で行なった両側検定の結果を【表7】に示したが、両グループの差は統計的に有意でなかった。

また、質問項目Ⅱ.6と同様に高いレベルのオープン度、つまり、産みの親、育ての親、養子の三者間で直接コミュニケーションをとる他の4項目(Ⅲ.1.9「産みの親が、子どもの誕生日に必ず子どもに電話をする」、Ⅲ.1.10「産みの親が、子ども

【表6】セミオープンアダプション共感度2項目平均値(最低値1, 最高値5)

質問項目	非当事者	当事者	t検定
Ⅱ.3	3.09	4.20	$t=-9.76$ , $df=284.8$ (unequal), $p=.000(<\alpha)$
Ⅱ.5	2.79	4.27	$t=-12.47$ , $df=414$ (equal), $p=.000(<\alpha)$

【表7】オープンアダプション共感度平均値(最低値1, 最高値5)

質問項目	非当事者	当事者	t検定
Ⅱ.4	2.98	4.13	$t=-9.91$ , $df=271.99$ (unequal), $p=.000(<\alpha)$
Ⅱ.6	2.24	2.23	$t=.09$ , $df=165.18$ (unequal), $p=.925(>\alpha)$